前立腺癌永久挿入密封小線源治療を受ける患者さまへ

患者様用

患者氏名:　　様　　受持医:　　受持看護師:

月日(日時)	／	／		／	／
経過(病日等)	入院日(治療前日)	治療当日術前	治療当日術後	術後1～2日目	手術後3日目(退院日)
達成目標	◆医療者からの入院生活や治療の説明について理解することができる ◆治療の必要性が理解でき、同意する	◆本人・家族の不安が軽減することができる	◆カテーテルからスムーズに尿が排泄され ◆腰椎麻酔による副作用(頭痛・悪心)がな ◆膀胱刺激症状がなく過ごせる	◆尿路感染を起こさない ◆カテーテルからスムーズに尿が排泄される ◆体温37.5℃以上の発熱がない ◆尿道カテーテル抜去後、確実な蓄尿ができる ◆脱落線源の対処法について理解できる	【退院基準】 ◆退院後の生活について理解できる ◆体温37.5℃以上の発熱がない ◆尿性状が血尿判定の1以下である
治療・薬剤 (点滴・内服)	普段飲んでいるお薬がありましたら、お知らせ下さい 入院中の内服薬について確認します 眠れないときは看護師にお知らせください	医師の指示があった場合のみ内服があります 手術の開始時間 (　　)時頃の予定で 点滴を始めます 翌日の夕まで続きます 必要時、治療に行く前に軽い麻酔薬の注射があります	点滴をしています	点滴をしています 前立腺のむくみをとり、尿を出しやすくする薬の内服を開始します 抗生剤の内服があります	
処置	看護師が陰部の除毛を行います 下剤の内服をしてもらいます ・昼食後に マグコロールP を内服してもらいます ・眠前に センノサイド を内服してもらいます 手の甲に主治医がマーキングをします	弾性ストッキングを履いて治療室に行きます 朝、浣腸を行います		主治医の診察後、会陰部のガーゼを除去します 尿の管は術後1日目に抜去します その後は尿を容器へ溜めてください (方法は看護師が説明します)	退院まで尿はずっと溜めてください シード線源の脱落の有無を確認します
検査・測定	身長、体重を測定します 血圧などのバイタルサインを測定します	治療中は機械を装着して脈や血圧を測定します		血液検査を行います	
活動・安静度	特に制限はありません 病棟を離れるときは看護師に声をお掛けください	治療終了後、翌日の朝までベッド上安静となります		室内で安静にしてください。検査以外は室内で過ごしてください 面会の方法については説明を行います	
食事	夕食後24時以降は絶食となります 水分摂取は麻酔科の指示に従ってください(看護師が指示を知らせに来ます)	絶飲食です(時間は医師の指示に従ってください) 内服については医師の指示に従ってください	治療後3時間後から飲水(水かお茶)ができます	朝より食事ができます	
清潔	除毛後に入浴します	入浴はできません		尿の管を抜いた後はシャワー浴ができます	シャワー浴ができます
排泄	手術が午前中の場合は前日の夕食後に浣腸を行います	手術が午後の場合は浣腸は当日の午前中に行います	治療後は尿の管が入っています	尿の管を抜いた後は、蓄尿瓶に尿を入れてください	
患者様及びご家族への説明 生活指導 リハビリ 栄養指導 服薬指導	受持医が入院診療計画書と手術について説明いたします 看護師が入院生活、病棟内について説明をいたします 麻酔医が診察と説明をいたします 放射線科技師より日常生活の確認を行います 必要に応じて栄養指導を行います 薬剤師が薬について説明いたします 治療に必要なバスタオル1枚を準備してください。 入院費に関するご心配事がありましたら、お早めに総合受付⑥番窓口にご相談下さい	**☆面会について☆** 当日の面会は必要な方のみとさせていただきます 子ども・妊婦の方は入室は禁止です 面会の際は入室記録への記載が必要になります(看護師が説明いたします)		水分は多めにとってください。1～1.5Lくらいが目安です。水分を多めに取り、尿を出すことが、排尿時痛・血尿の改善、感染予防に有効です。 看護師から尿の溜め方と脱落線源の対処法について説明があります。	次回受診について説明します 治療カードをお渡しします 退院後の生活について看護師と放射線技師より説明があります 退院は午後からでお願いします

注1　病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります

注2　入院期間については、現時点で予測される期間です

117-0206-01　国立病院機構熊本医療センター泌尿器科　2014年2月作成